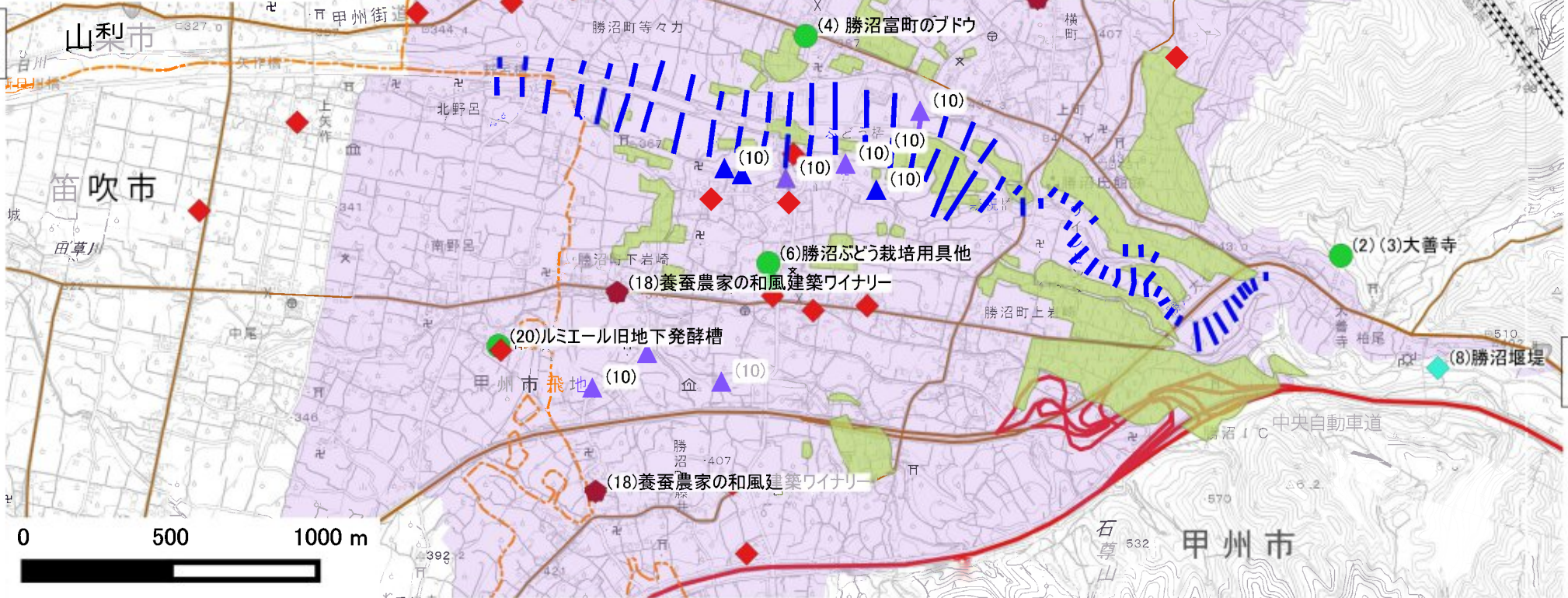


① 申請者	◎山梨県（山梨市、笛吹市、甲州市）	② タイプ	地域型 / シリアル型 A B C D E
③ タイトル			
<p>葡萄畑が織りなす風景－山梨県峡東地域－</p>			
④ ストーリーの概要（200字程度）			
<p>甲府盆地の東部は平坦地から傾斜地まで葡萄畑が広がり、初夏には深碧の絨緞、秋には紅葉の濃淡が日に映え、季節ごとに様々な風景を魅せてくれます。</p> <p>奈良時代から始まったと伝えられる葡萄栽培は、先人たちの知恵と工夫により、かつて水田や桑畑だった土地を一面の葡萄畑に変え、またその葡萄畑に育まれたワインは日常のお酒として地域に根付きました。今も歴史を語る技術や建物は受け継がれ、葡萄畑の風景の中に溶け込んでいます。</p>			
   			
⑤ 担当者連絡先			
担当者氏名	山梨県教育庁学術文化財課 文化財指導監 村石眞澄 文化財保護担当課長補佐 坂本久美		
電 話	055－ 223－1792	FAX	055－ 223－1793
E-mail	sakamoto-ugn@pref.yamanashi.lg.jp		
住 所	甲府市丸の内1丁目6番1号		

凡例

- 明治時代の葡萄畑
- 葡萄畑
- 甲州切妻型民家
- 養蚕農家の特徴をもつ和風建築ワイナリー
- 歴史的ワイナリー
- 構成文化財
- 葡萄貯蔵庫
- 日川治水施設群
- 日川堰堤群

Map3-3



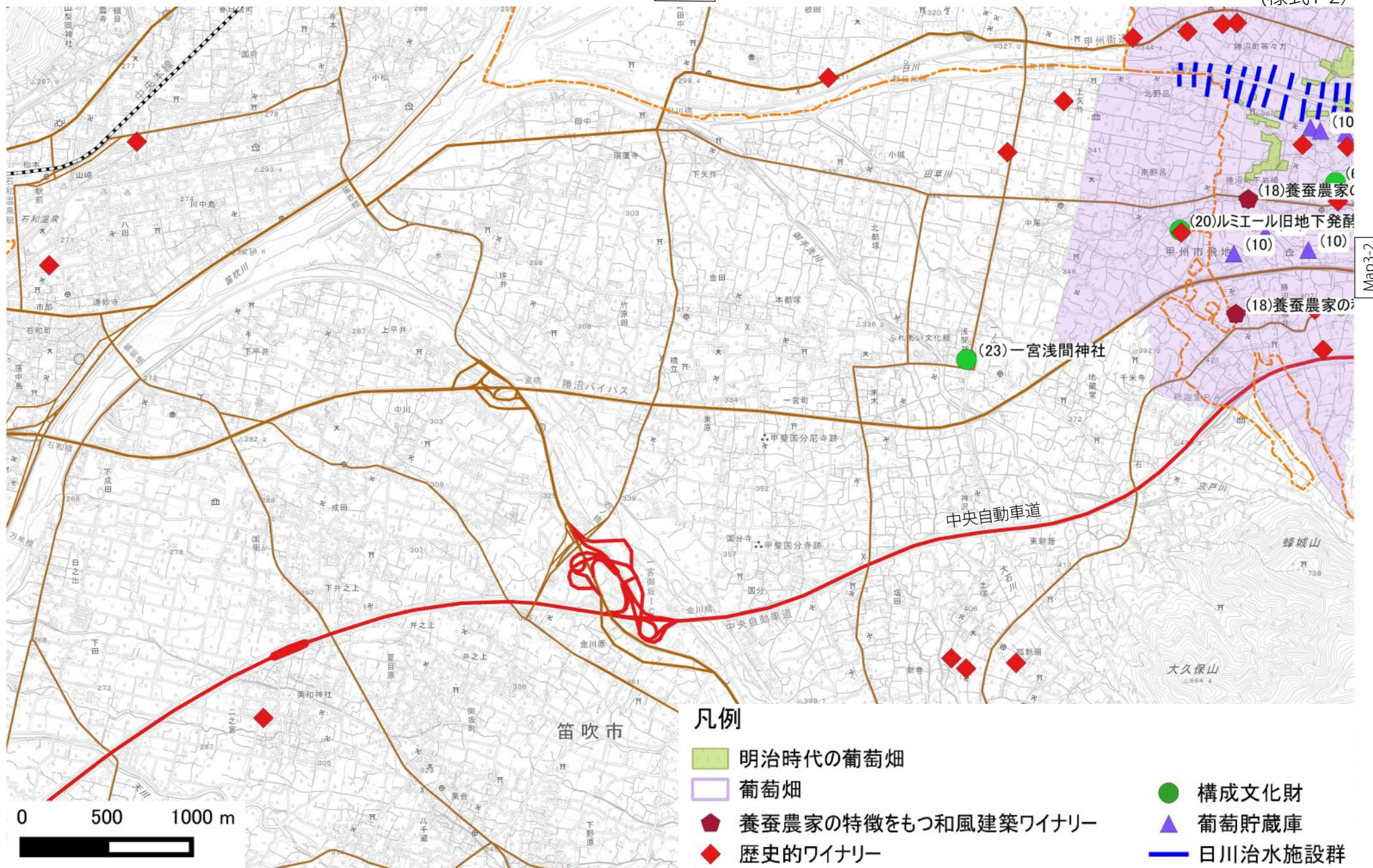
Map3-2

Map3-4

Map3-1

Map3-4

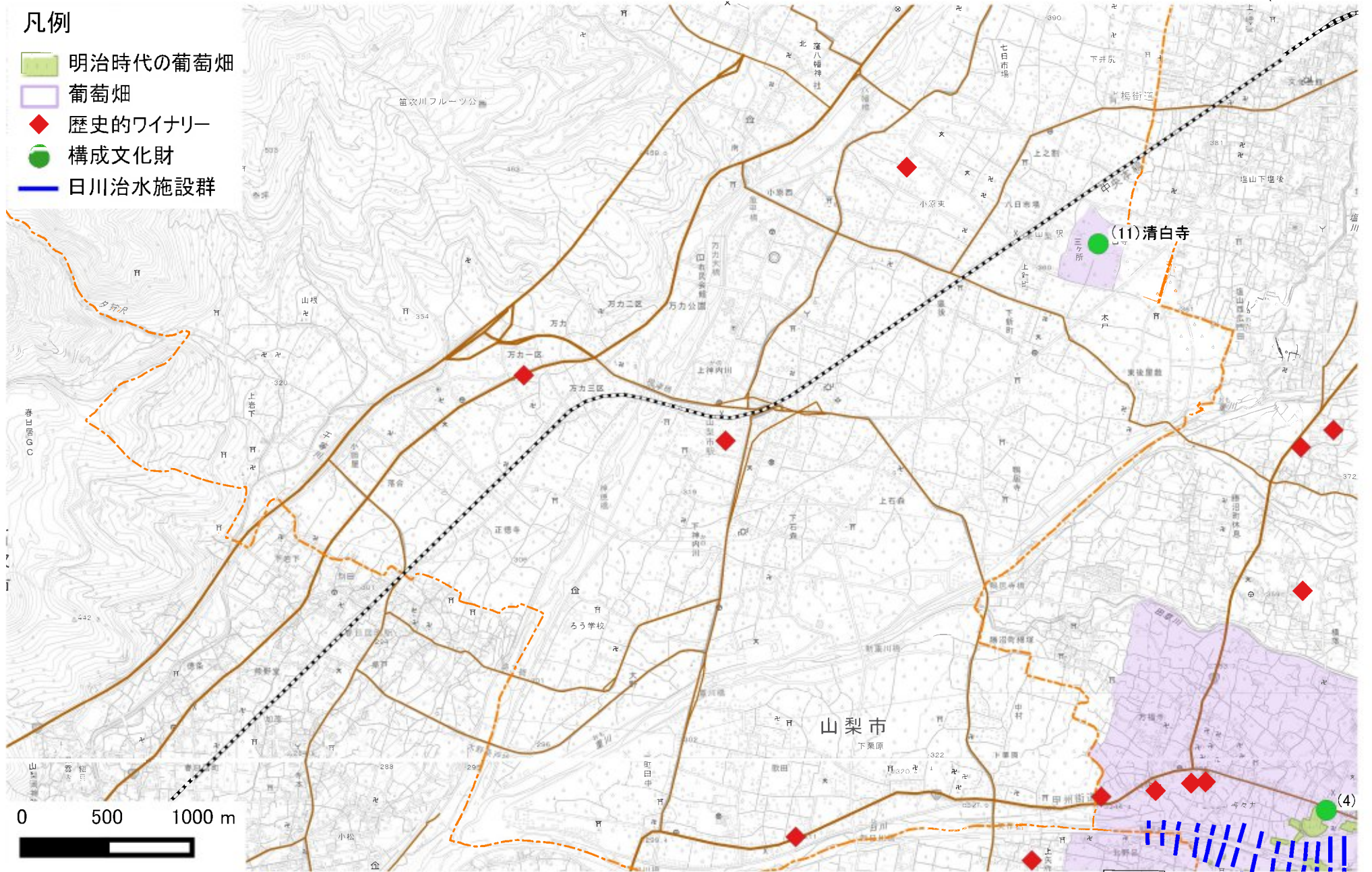
(様式1-2)



Map3-3

凡例

- 明治時代の葡萄畑
- 葡萄畑
- 歴史的ワイナリー
- 構成文化財
- 日川治水施設群



Map3-4

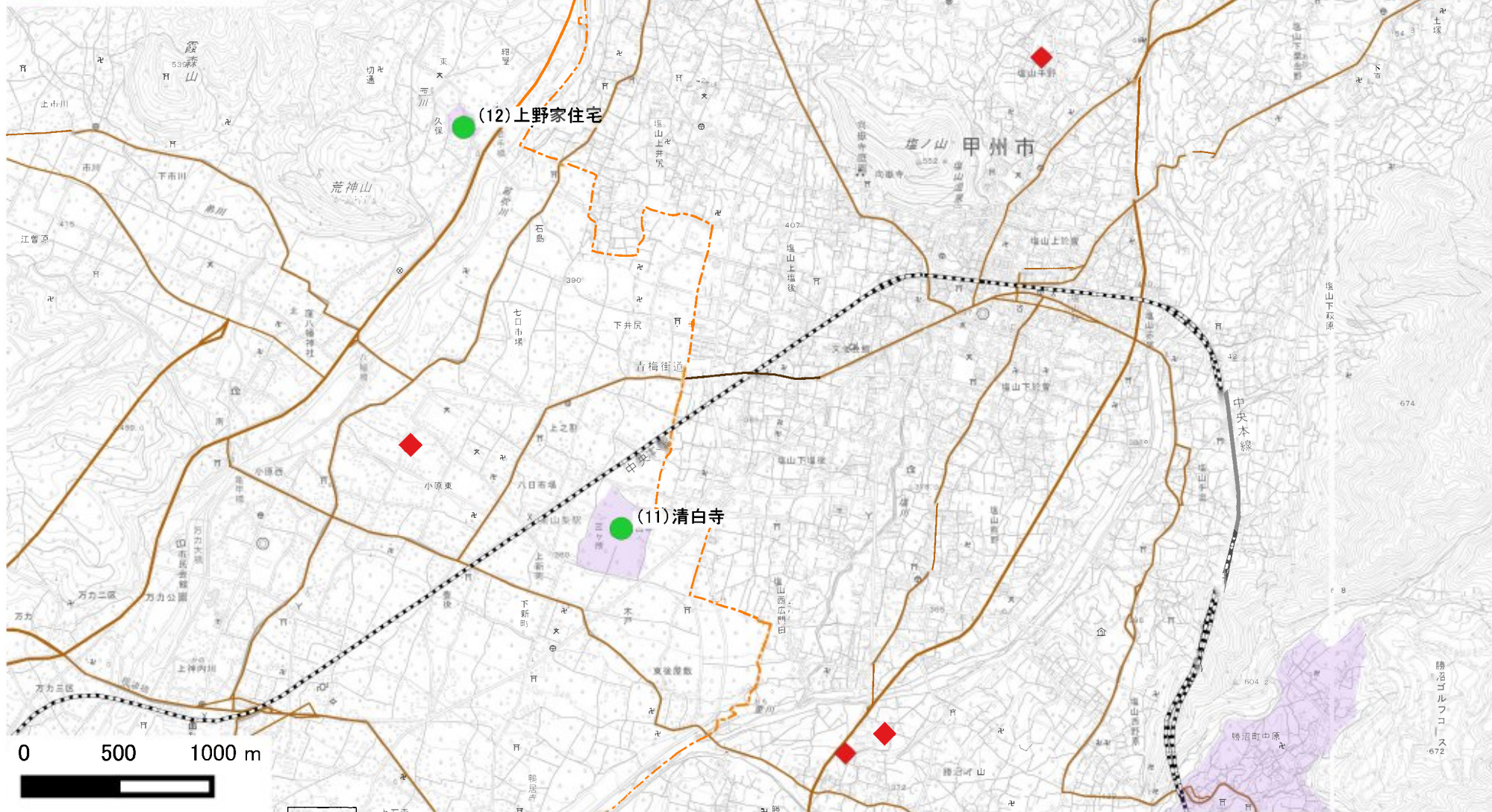
Map3-2

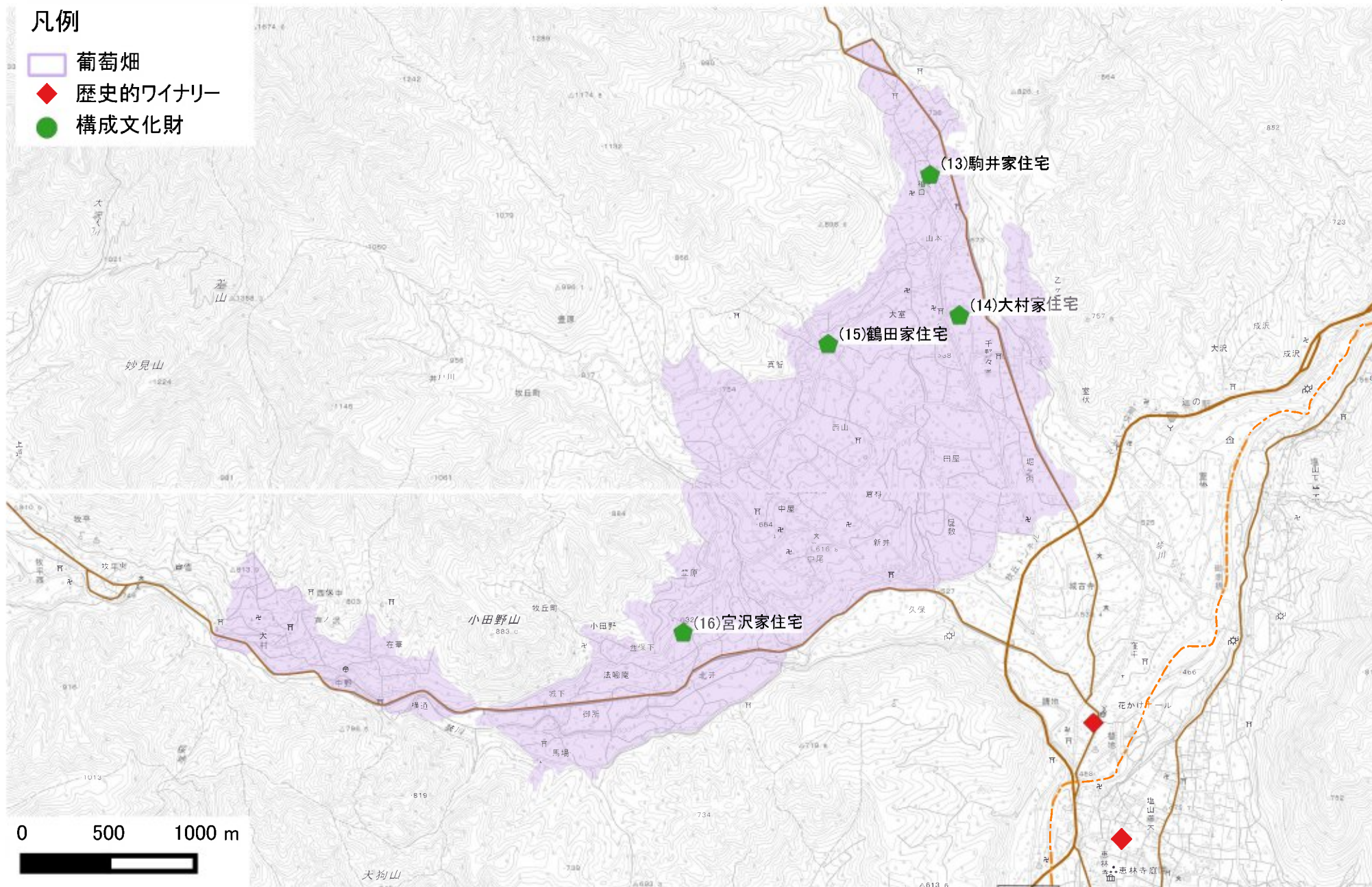
Map3-6

(様式1-2)

凡例

- 葡萄畑
- 歴史的ワイナリー
- 構成文化財



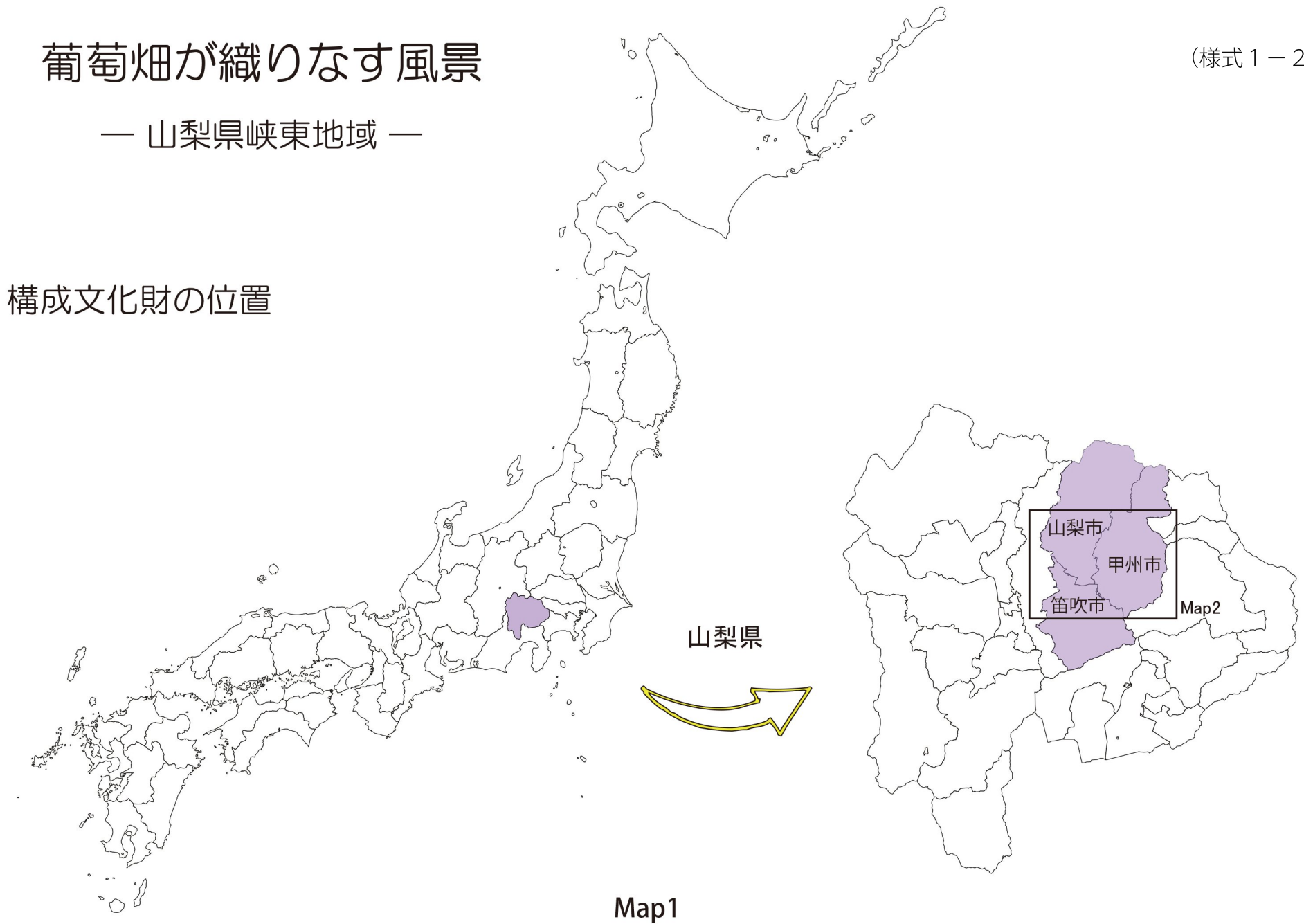


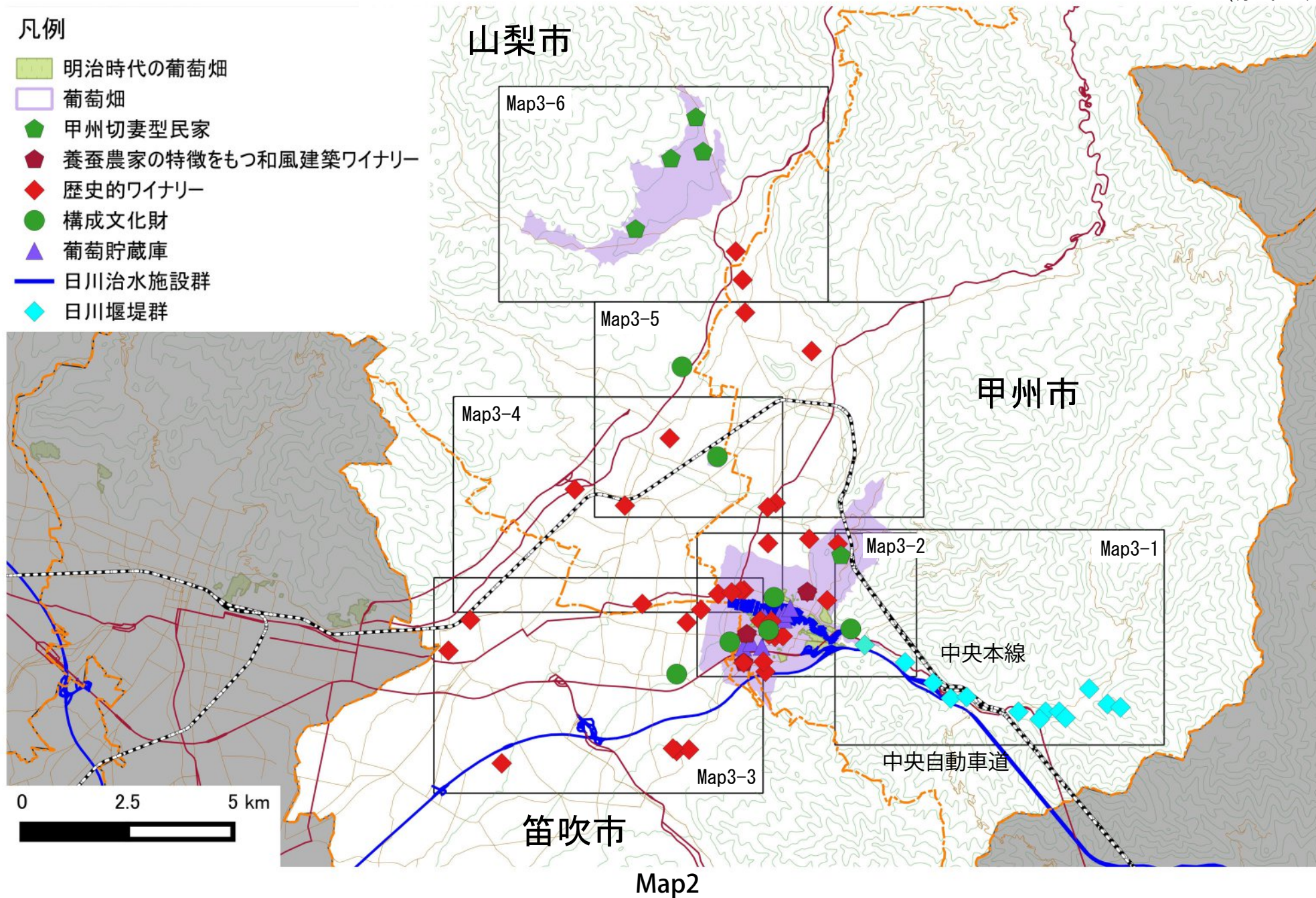
葡萄畑が織りなす風景

(様式 1 - 2)

— 山梨県峡東地域 —

構成文化財の位置

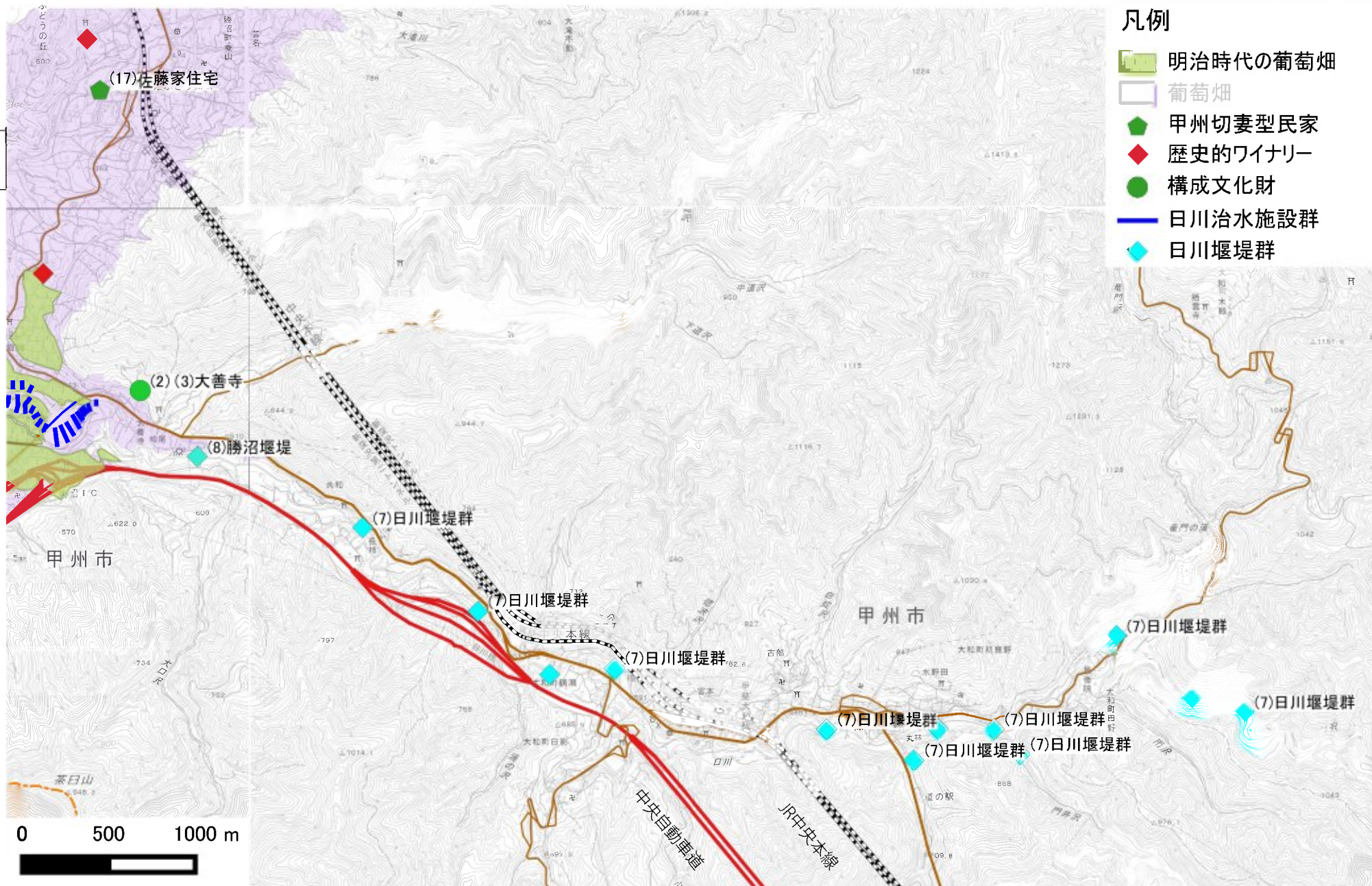




(様式1-2)

凡例

- 明治時代の葡萄畑
- 葡萄畑
- 甲州切妻型民家
- 歴史的ワイナリー
- 構成文化財
- 日川治水施設群
- 日川堰堤群



Map3-2

ストーリー ぶどうばたけ 葡萄畑が織りなす風景 — 山梨県 峡東地域 —

J R 中央本線の下り列車が甲府盆地の東玄関、勝沼ぶどう郷駅にさしかかると、視界が一気に開け、遙か遠く甲府盆地の彼方に青い南アルプスの連なりまで望むことができます。

車窓から見下ろす平地はもちろん、見上げる急斜面まで見渡す限り葡萄畑が広がっており、春から夏には若葉から青葉へ、秋から冬には紅葉の濃淡が陽に映え、ぶどう郷の四季は、色彩の変化とともに移りゆき、繊細かつ鮮やかに、訪れる人々の目を楽しませてくれます。



紅葉の葡萄畑

《先人の知恵と工夫による葡萄畑の形成》

甲府盆地東部の勝沼地区は、葡萄栽培が古くから行われ、葡萄にまつわる伝承の地となっています。奈良時代の名僧行基の夢に、葡萄を手にした薬師如来が現れ、その姿を刻んだのが大善寺（ぶどう寺）の薬師如来像であり、この地に葡萄栽培を伝え、これが甲州ワインの原料となる甲州葡萄であると言われています。

江戸時代になると、葡萄は後に甲州式と呼ばれる竹を使った棚で栽培されるようになりました。元々葡萄は乾燥を好む果物であるため、棚による栽培は通風が良く生育に適し、日本における葡萄栽培の原型となりました。



大善寺薬師如来像

その後、竹に代わり自由に加工できる丈夫な針金が明治中期に導入されたこと

で、どのような地形にも棚が作れるようになり、屋根状に広がる葉の間から色づく葡萄の房が、シャンデリアのようにぶら下がる光景が傾斜地にまで広がるようになりました。

またこの地区では、東西に流れる日川が度々氾濫し、家や田畑が流されるため、明治末期以降、土砂流出を防ぐための石積みの治水施設や上流に土砂止めの堰堤などの施設が作られました。

その結果、川の氾濫が抑えられ、日川沿いの田畑は水はけの良い砂地に変わり、葡萄畑への転換が進みました。現在でも、日川沿いの葡萄畑の中には、役目を終えた治水施設が幾筋もの石畳となって残っています。

日川沿いの治水施設
上は甲州式棚栽培の葡萄

《時代の変化とともに拡大した葡萄畑》

明治期の峡東地域（甲府盆地東部）では、「甲州切妻型」と呼ばれる光を取り入れるために棟の中央を持ち上げた「突上げ屋根」を設けた家屋で、養蚕が盛んに行われていました。

しかし、昭和30年代中頃から化学繊維の普及などにより養蚕業が衰退し始めると、養蚕農家は収益性の高い葡萄などの果樹栽培へと転換し、限られた耕作地で収穫量を増やすために、家屋の軒先まで葡萄棚を張り巡らせました。

こうして葡萄畑は地域の隅々まで拡大していき、農家だけでなく、大善寺や清白寺などの寺社仏閣も葡萄畑の海に浮かぶような、他では観られない風景が形成されていきました。

また、勝沼地区には、収穫した葡萄を一時保存する半地下の貯蔵庫の遺構があります。これにより、出荷量の調整が可能となり、市場への安定供給と価格の安定が図られ、葡萄の生産拡大に繋がっていきました。この貯蔵庫は、電気冷蔵庫が普及する昭和30年代まで使われました。

昭和33年に国道20号新笹子トンネルが開通したことにより流通環境が飛躍



軒先まで張り巡らせた葡萄棚



甲州切妻型家屋

的に改善し、京浜市場と直結されたことから、葡萄栽培は一層盛んになりました。またモータリゼーションの進展とともに、首都圏からの観光客が急増したため、主要な道路沿いには観光ぶどう園が増加し、今でも収穫の時期には、葡萄狩りを楽しむ観光客で大いに賑わいます。

《葡萄畑から始まるワイン文化》

明治時代になり、ワインづくりが政府の殖産興業政策の一環になると、葡萄栽培が盛んな山梨県では明治 9 年に甲府城跡に県営の勸業試験場が開設され、全国に先駆けて葡萄酒醸造所が開かれました。

また明治初期、勝沼にあった日本初の民営のワイン醸造会社が二人の青年をフランスへ派遣し、本格的なワイン醸造に取り組みました。そして、試行錯誤を繰り返しながら、ワインの醸造と普及に情熱を注ぎ続けた人々によって、この地域では「葡萄酒」文化が形成され、定着していきます。

明治中期には、勝沼の生産農家が葡萄価格の安定に取り組もうと組合を組織し、ワイン醸造に乗り出した際、組合員の間で冠婚葬祭はもちろん日常もワインを飲用する葡萄酒愛飲運動が始まり、ワインは農家にとって生活に密着し、身近な飲み物となっていました。

山梨県ゆかりの作家太宰治が甲府に逗留した際のことを書いた小説『新樹の言葉』では「押入れから甲州産の白葡萄酒の一升瓶を取り出し、茶呑茶碗で、がぶがぶのんで、酔って来たので蒲団ひいて寝てしまった。」とあり、地域にワインが浸透し、飾らない楽しみ方で飲まれる様子がよく描かれています。

このように農家が中心となって始めた葡萄酒を造り楽しむ習慣は、やがて組織化され、本格的なワイン醸造につながり、現在、峡東地域は 60 を超える日本一のワイナリー集積地に発展しました。

西欧の古城風の建物から養蚕農家を改築した家屋まで、ワイナリーの形態は様々であるように、同じ地域の甲州葡萄で造った甲州ワインであっても、風味や香りはワイナリーごとに異なっています。

この地域のワイン文化は神事にまで及び、笛吹市の一宮浅間神社では祭神の木花開耶姫命が酒造の神であることから、昭和 40 年頃からワインが奉納されており、県内ワイナリーの約半数に当たる 40 社ほどが、農作業が始まる 3 月半ばに一升瓶ワインを奉納し、参拝者へワインの御神酒が振る舞われます。また今では葡萄の豊作と良質なワイン醸造を祈願してコルク栓を供養する地域のお祭りも併せて行われています。



ワインの御神酒

このように、葡萄とワインとの地域の関わりは多岐にわたり、特に長い栽培の歴史を持ち、美しい葡萄畑の景観の中心をなす甲州葡萄から造られる甲州ワインは、鉄分が少なく魚料理の生臭さを増幅しないため、近年の世界的な和食ブームを背景に、寿司や刺身など生魚の味わいを楽しむ和食との相性が良いワインとして、欧米などで評価が高まっています。

《歴史とともにある葡萄畑とワインの愉しみ》

葡萄畑が広がる峡東地域の風景は、100 年を超える年月を掛けて作り上げられてきたものです。

地域を訪れる人々が四季折々の景観、街並みに触れて心を躍らせるのは、この地域が積み重ねてきた葡萄栽培の歴史や、先人達の努力、互いに切磋琢磨し、高品質なワイン醸造に挑戦し続けるワイナリーの姿など、地域の特性が大きく影響しています。

季節の移ろいとともに変化する葡萄畑の風景の中には、今も受け継がれる技術や建物、日常生活の中に溶け込んだワインがあり、それらに触れることで山梨県峡東地域の魅力を誰もが感じることが出来ます。



明治期のワイン地下発酵槽

ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所在地 (※4)
①	葡萄畑	未指定	江戸時代に考案された棚栽培を改良し、平地から急斜面まで見渡す限り葡萄畑が広がっています。明治時代までは甲府盆地東部の勝沼地区に限られていましたが、現在では峡東地域の各地に広がっています。	山梨市 笛吹市 甲州市
②	木造薬師如来像	国指定 重要文化財 (彫刻)	奈良時代の名僧行基の夢の中に葡萄を手にした薬師如来が現れ、その姿を像に刻んで大善寺に祀り、行基がこの地域に葡萄栽培を伝えたと伝説的に語られています。薬師如来は「ぶどう薬師」と呼ばれて親しまれています。通常は秘仏として厨子納められていますが、5年に1度のご開帳の際にはその姿を拝むことができます。	甲州市
③	大善寺	国宝 (建造物)	本堂は鎌倉時代に竣工した山梨県内最古の寺院建築で、②の木造薬師如来像が安置されています。行基が葡萄栽培を伝えたことから、「ぶどう寺」とも呼ばれ、今も寺域で葡萄を栽培しています。また行基説とは別に、鎌倉時代初期に、甲斐国の住人雨宮勘解由がヤマブドウと異なるブドウを発見したのが甲州葡萄のはじまりという説もあります。	甲州市
④	かつぬまとみちよう 勝沼富町のブドウ (甲州種の原種)	甲州市指定 天然記念物	山梨県固有のブドウ品種である甲州葡萄。甲龍 <small>こうりゅう</small> と呼ばれています。山梨のワインを代表する甲州ワインの原料となる品種です。	甲州市
⑤	甲州式棚栽培	未指定	竹を使った棚栽培により、江戸時代中期には甲州は日本一の葡萄生産量を誇るようになり、後に甲州式と呼ばれました。また明治 31 年に丈夫な針金を導入することにより、平地から急斜面まで葡萄を栽培できるようになりました。	山梨市 笛吹市 甲州市

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所在地 (※4)
⑥	勝沼のぶどう栽培用具及び葡萄酒醸造用具	国登録有形民俗文化財	山梨の葡萄とワインづくりの歴史を語る民俗文化財。個々の道具を観察すると、使い手それぞれの体格に合わせて工夫して造られていることが実感できます。	甲州市
⑦	ひかわえんていぐん 日川堰堤群	未指定	日川の上流に設置された土砂流出防止施設群。大正4年から昭和6年までに⑧の勝沼堰堤を含む13の堰堤が建設されました。これらの堰堤により、下流の田畑は、安定した水はけのよい耕地となり、葡萄畑への転換が進みました。	甲州市
⑧	かつぬまえんてい 勝沼堰堤	国登録有形文化財 (建造物)	日川下流の土地を水害から守るために大正4～6年に建設された砂防堰堤。岩盤を巧みに利用し、自然の滝のような景観を作り出し、祇園の滝と呼ばれる地域の名所となっています。日本で初めてコンクリートを使用した砂防堰堤としても知られる⑦日川堰堤群の代表的な存在。	甲州市
⑨	日川治水施設	未指定	日川の流路を固定するために明治44年から昭和6年にかけて建設された土砂流出防止の74基の治水施設。現在、下部は土砂に埋まり、上部のみが葡萄畑の中に石畳のように見えています。周囲の土地は水はけのよい土地に変わり、葡萄畑として利用されています。	甲州市
⑩	葡萄貯蔵庫	未指定	葡萄畑の地面を掘り下げ、石垣を積み、一定の温度と湿度を保つ半地下式貯蔵庫をつくり、収穫した葡萄の保存に使っていました。この写真のものは、奥に見える鉄の扉の奥に葡萄を収納しました。貯蔵庫は、電気冷蔵庫が普及する昭和30年代まで使われていました。	甲州市
⑪	せいはいくじ 清白寺	国宝 (建造物)	かつては周囲を水田や桑畑に囲まれていましたが、葡萄畑に転換したことにより葡萄畑の中に寺社が浮かぶような風景となっています。	山梨市

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所在地 (※4)
⑫	うえの 上野家住宅	県指定 有形文化財 (建造物)	武田氏家臣を祖とする豪農の江戸時代初期の武家屋敷。周囲の田畑が葡萄畑に転換したことで、現在では葡萄畑に囲まれた建造物となっています。	山梨市
⑬	こまい 駒井家住宅	未指定	近代の養蚕農家の特徴を持つ突上屋根を持つ甲州切妻型民家。周囲が葡萄畑に囲まれています。養蚕から葡萄栽培の転換を示す建造物。現在も茅葺を維持する牧丘町柚口の代表的な民家。	山梨市
⑭	おおむら 大村家住宅	未指定	近代の養蚕農家の特徴を持つ越屋根付きの民家。周囲が葡萄畑に囲まれています。養蚕から葡萄栽培の転換を示す建造物。	山梨市
⑮	つるた 鶴田家住宅	未指定	近代の養蚕農家の特徴を持つ越屋根付きの民家。周囲が葡萄畑に囲まれています。養蚕から葡萄栽培の転換を示す建造物。	山梨市
⑯	みやざわ 宮沢家住宅	未指定	近代の養蚕農家の特徴を持つ越屋根付きの民家。周囲が葡萄畑に囲まれています。養蚕から葡萄栽培の転換を示す建造物。	山梨市
⑰	佐藤家住宅	国登録 有形文化財 (建造物)	甲州切妻型民家、小屋裏で蚕を飼うために明かり採りの屋根が設けてあります。葡萄畑の広がりにより、周囲が葡萄畑に囲まれています。養蚕から葡萄栽培の転換を示す文化財。	甲州市

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所在地 (※4)
⑮	養蚕農家の特徴を持つ和風建築ワイナリー	未指定	<p>近代の養蚕農家の特徴を持つ民家で、現在は和風建築ワイナリーとして使われています。</p> <p><原茂ワイン株式会社> 越屋根をもつ建物で、軒先まで葡萄棚が張り巡らされています。</p> <p><勝沼醸造株式会社> 2階に欄干を設けた建物で、南側に葡萄畑が広がっています。</p> <p><丸藤葡萄酒工業> 越屋根をもつ建物で、建物の南側には葡萄畑が広がっています。</p>	甲州市
⑯	歴史的ワイナリー	未指定	日本のワイン産業の黎明期からワイン醸造を行っている創業 100 年以上の歴史をもつワイナリーや東京オリンピックを契機とするワインブーム以前に創業した 50 年以上の歴史をもつワイナリー。最新の設備などでワインづくりを行っています。	山梨市 笛吹市 甲州市
⑳	ルミエール旧地下発酵槽	登録 有形文化財 (建造物)	本格的なワイン醸造が始まった頃の古い醸造施設で、明治 34 年に造られた石造りの発酵槽。現在もこの発酵槽が使用されてワインが作られています。	笛吹市
㉑	甲州ワイン	未指定	甲州ブドウを使用したワイン。	山梨市 笛吹市 甲州市
㉒	葡萄酒	未指定	100 年以上前に農家を主体としたワインづくりにより地域に根付いた地酒。一升瓶に詰められ、湯呑茶碗で飲むという飾らない飲み方で楽しまれている。	山梨市 笛吹市 甲州市
㉓	いちのみやあさまじんじや 一宮浅間神社	未指定	御祭神の ^{このぼなさくやひめ} 木花開耶姫は酒造の守護神でもあり、県内ワイナリーの約半分が、農作業が始まる時期になると、1 升瓶ワインを奉納しています。	笛吹市

構成文化財の写真一覧

① 葡萄畑



② 木造薬師如来像



③ 大善寺



④ 勝沼富町のブドウ（甲州種の実種）



⑤ 甲州式棚栽培



⑥勝沼のぶどう栽培用具及び葡萄酒醸造用具



⑦日川堰堤群



⑧勝沼堰堤



⑨日川治水施設



⑩葡萄貯蔵庫



⑪清白寺



⑫上野家住宅



⑬駒井家住宅



⑭大村家住宅



⑮鶴田家住宅



⑯宮沢家住宅



⑰佐藤家住宅



⑱養蚕農家の特徴を持つ和風建築ワイナリー

(原茂ワイン)



(勝沼醸造)



(丸藤葡萄酒工業)



⑲歴史的ワイナリー



⑳ルミエール旧地下発酵槽



②①甲州ワイン



②②葡萄酒



②③一宮浅間神社



日本遺産を通じた地域活性化計画

(1) 将来像 (ビジョン)						
<p>本県は日本ワインの生産量日本一のワイン王国であり、昨今世界的な評価が高まりつつある甲州ワインの原料となる甲州ぶどうの作付面積は全体の約97%を占めるなど日本一のぶどう生産地でもある。そして、峡東地域のぶどう畑の連なる景観は他地域にはない本県ならではの魅力である。</p> <p>当地域では平成27年度に「富士の国やまなし峡東ワインリゾート構想」を官民が協働して策定し、情報発信や受入環境整備を行っているが、今後、日本遺産の取り組みと併せ、さらにステップアップした魅力向上を図ることにより、農業景観やワイン産地の魅力、地域の歴史を体験できる国内随一の地域として、国内外のワインファンのみならず、自然やフルーツなどを好む層にも訴求し、多くの観光客が訪れる観光地域づくりを行っている。</p>						
(2) 地域活性化のための取組の概要						
<p>①日本遺産を構成する景観やワイン、歴史・文化資源の魅力発信 日本遺産の構成要素となる農業景観やワイン、今に残る様々な文化財や歴史文化施設といった地域の魅力をHPや映像コンテンツなどを通じて国内外に発信するとともに、都内アンテナショップなどとも連携して発信することにより、交流人口の拡大につなげていく。</p> <p>②日本遺産を契機とした地域の関係者による一体感の醸成 地域住民や観光事業者等の関係者が地域の持つ魅力を再発見・再認識し、地域への誇りや愛着を共有し、地域の景観、地場産品、歴史や文化財などを来訪者に積極的に伝えられるよう、人材育成や小中学校等への出前授業といった取り組みを行い、地域全体のおもてなしの醸成を図る。</p> <p>③日本遺産の取り組みや魅力を体感できる取り組みの推進 首都圏の大型百貨店やJR東日本などと連携し、日本遺産をはじめ地域の魅力を体感できるイベントやキャンペーンなどの取り組みを県内外で行うとともに、地域を訪れた際に魅力を体感できるよう、地域を快適に周遊できるガイドマップを日本語・英語版で作成・配布し誘客につなげていく。</p> <p>④地域における受入環境の整備 地域へのファン・リピーターを増やしていくためには、地域の受け入れ環境の整備が不可欠であることから、周遊看板及びベンチの整備や県内交通事業者との連携による2次交通の利用の促進を図り、観光客が安心・快適な周遊につなげていく。</p> <p>⑤インバウンドへの誘客促進 地域が持つ景観や歴史文化資源の魅力を外国人に積極的に紹介し、地域への誘客を促進するため、地域限定特例通訳案内士の団体や県内大学等と連携し、インバウンドに対応できる案内人材の育成や、インバウンドに特化したモニターツアーやファムトリップを行う。</p>						
(3) 自立的・継続的な取組						
<p>峡東地域においては、県、地元自治体や観光協会、ワイナリー、宿泊関係、2次交通事業者など関係団体が連携し、「峡東地域ワインリゾート推進協議会」を組織し、取り組む枠組みが形成されている。この協議会会員による負担金をはじめ、本事業により構築するHPのバナー広告費やサポーター会費などによる財源確保や民間活力の活用を図り、継続した取り組みを進めていく。</p>						
(4) 実施体制						
<p>・協議会の名称 峡東地域ワインリゾート推進協議会</p> <p>・構成団体 【協議会】 山梨市（観光課、生涯学習課） 笛吹市（観光商工課、文化財課） 甲州市（観光交流課、産業振興課、文化財課） 山梨県（観光部観光資源課、産業労働部地域産業振興課、農政部果樹・6次産業振興課、学術文化財課）、各市観光協会（3団体）、（公社）やまなし観光推進機構、各市ワイナリー団体（4団体）、JA（2団体）、各市宿泊施設団体（4団体）、（一社）山梨県バス協会、（一社）山梨県タクシー協会、（一社）ワインツーリズム、東日本旅客鉄道(株)八王子支社、(株)JTB関東甲府支店、(株)山梨中央銀行、山梨県ワイン造協同組合、（一社）日本ソムリエ協会、(株)大丸松坂屋百貨店、(株)日本政策金融公庫 甲府支店、イオンリテール株式会社 南関東カンパニー 東京山梨事業部 イオン甲府昭和店</p> <p>【アドバイザー】 日本ソムリエ協会会長 田崎真也氏、立教大学観光学部教授 庄司貴行氏</p> <p>※日本遺産認定に向けて、協議会の中に日本遺産の取り組みを検討・推進する枠組みの設置を検討する。 ※アドバイザーには事業の進捗に関して専門家の見地から意見をいただき、事業推進に生かしていく。</p>						
(5) 地域活性化計画における目標と期待される効果			定量的評価：別紙①のとおり			
期待される効果：	日本遺産の取り組みを通じて、ぶどうをはじめとした農業景観やワインの魅力、そしてそれらを形作ってきた地域の文化財などに改めて光を当てることが可能となり、地域に埋もれた観光資源の掘り起こしと活用につながっていく。これにより、地域のファン・リピーターの確保と観光振興が図られ、本県の地域活性化に繋がるものと考え。					
(6) 日本遺産魅力発信推進事業			別紙②のとおり			
補助金額：	平成30年度：	26,439千円	平成31年度：	25,024千円	平成32年度：	13,820千円
(7) その他事業			別紙③のとおり			

（５）地域活性化計画における目標と期待される効果

設定目標Ⅰ：	日本遺産を活用した集客・活性化		
計画評価指標：	観光客入込み数（具体的な指標は次のとおり）		
具体的な指標：	日本遺産対象地域（峡東地域）の観光客数		
目標値：	平成 28 年度	551 万人 ⇒ 平成 35 年度	588 万人
設定根拠：	「富士の国やまなし峡東ワインリゾート構想」（計画期間：H27～H31）における観光入込客数の増加率（年0.94%）を使用し、H28年度の観光入込客数の実人数から算出		
設定目標Ⅱ：	日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化		
計画評価指標：	地域の文化に誇りを感じる住民の割合（具体的な指標は次のとおり）		
具体的な指標：	日本遺産に関する事業への地元住民の参加割合		
目標値：	平成 30 年度	0 % ⇒ 平成 35 年度	10 %
設定根拠：	平成30年度の日本遺産関連事業への参加者のうち峡東地域の参加者数の割合を基礎として、毎年2%伸ばし、平成35年度までに10%伸ばす。		
設定目標Ⅲ：	日本遺産の関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立		
計画評価指標：	その他（具体的な指標は次のとおり）		
具体的な指標：	峡東地域のサポーター会員数		
目標値：	平成 30 年度	300 人 ⇒ 平成 35 年度	550 人
設定根拠：	サポーター制度導入による会員確保数を初年度である平成30年度に300人と設定し、平成35年度までに毎年50人ずつの増加を目指す。		
設定目標Ⅳ：			
計画評価指標：	（具体的な指標は次のとおり）		
具体的な指標：			
目標値：	平成 年度	⇒ 平成 年度	
設定根拠：			

(6) 日本遺産魅力発信推進事業

事業①：日本遺産の魅力を紹介するHPの充実強化	
事業区分：	情報発信
事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 30 年度
補助金額：	平成30年度： 5,000千円 平成31年度： 0千円 平成32年度： 0千円
(積算)	ホームページ構築費一式
事業概要：	日本遺産のストーリーや構成する文化財等の観光資源及び地域の食や宿泊、周遊ルートなどを紹介するホームページの充実強化を図る。
評価指標区分：	ホームページ閲覧数 (PV数) (具体的な指標は次のとおり)
具体的な指標：	構築するホームページの月あたり閲覧数
目標値：	平成 30 年度 1,300 回 ⇒ 平成 35 年度 1,625 回
事業②：日本遺産を紹介し、周遊につなげる観光アプリの構築	
事業区分：	情報発信
事業期間：	平成 31 年度 ～ 平成 31 年度
補助金額：	平成30年度： 0千円 平成31年度： 8,000千円 平成32年度： 0千円
(積算)	アプリ構築一式
事業概要：	地域の来訪者が快適に地域を周遊しながら日本遺産を知り、地域の魅力を体験できる観光アプリの構築を行う。
評価指標区分：	コンテンツダウンロード数 (掲載HPや動画共有サイトでの再生回数等) (具体的な指標は次のとおり)
具体的な指標：	平成31年度に構築する観光アプリのダウンロード数
目標値：	平成 32 年度 10,000 回 ⇒ 平成 35 年度 11,500 回
事業③：映像コンテンツの制作	
事業区分：	情報発信
事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 35 年度
補助金額：	平成30年度： 4,000千円 平成31年度： 4,000千円 平成32年度： 0千円
(積算)	映像コンテンツ制作一式 映像コンテンツ制作一式
事業概要：	日本遺産を紹介するホームページやYouTubeによる魅力発信をはじめ、ポスター、ガイドマップ等を作成する際にも画像として活用できる春夏秋冬の魅力ある動画コンテンツを制作することとし、H30年度に秋冬、H31年度に春夏を作成する。
評価指標区分：	コンテンツダウンロード数 (掲載HPや動画共有サイトでの再生回数等) (具体的な指標は次のとおり)
具体的な指標：	制作する映像のHPやYouTube等での再生回数
目標値：	平成 30 年度 200 件 ⇒ 平成 35 年度 400 件
事業④：広域周遊ガイドマップの制作	
事業区分：	普及啓発
事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 35 年度
補助金額：	平成30年度： 0千円 平成31年度： 0千円 平成32年度： 4,320千円
(積算)	版ガイドマップ各25千部×@80円
事業概要：	春夏秋冬の魅力ある動画コンテンツを活用し、日本遺産の構成文化財をはじめ地域のワイナリー等を歩いて回ることができる日本語版・英語版のガイドマップを作成し、快適な地域内周遊につなげていく。
評価指標区分：	その他 (具体的な指標は次のとおり)
具体的な指標：	「富士の国やまなし峡東ワインリゾート構想」における観光入込客数
目標値：	平成 30 年度 551 万人 ⇒ 平成 35 年度 588 万人

事業⑤：		日本遺産のキャンペーン、イベント事業					
事業区分：		普及啓発		事業期間：		平成 30 年度 ～ 平成 32 年度	
補助金額：		平成30年度：0千円		平成31年度：6,000千円		平成32年度：0千円	
(積算)				イベント構築等一式			
事業概要：		日本遺産としての地域のぶどうやワインなどの魅力を他地域の方々にPRし、誘客を図るため、東京などの大都市圏におけるキャンペーンやワインに関連するイベントを実施する。					
評価指標区分：		その他				(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標：		「富士の国やまなし峡東ワインリゾート構想」における観光入込客数					
目標値：		平成 30 年度		551 万人		⇒ 平成 35 年度 588 万人	
事業⑥：		広域周遊ルート看板及びベンチの設置					
事業区分：		公開活用のための整備		事業期間：		平成 30 年度 ～ 平成 31 年度	
補助金額：		平成30年度：6,804千円		平成31年度：3,024千円		平成32年度：0千円	
(積算)		反120基×@15千円、拠点看板50箇所		ベンチ制作設置70脚×@40千円			
事業概要：		地域への来訪者が安心・快適に日本遺産をはじめとする地域の資源を巡り、地域の魅力をより深く知るとともに、地域としての一体感を醸成することができるよう、周遊ルート看板等を設置するとともに、快適な周遊に必要なとなるベンチを設置する。					
評価指標区分：		その他				(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標：		地域を訪れた観光客の満足度					
目標値：		平成 30 年度		80 %		⇒ 平成 35 年度 100 %	
事業⑦：		地域を周遊する2次交通の利用拡大					
事業区分：		情報発信		事業期間：		平成 30 年度 ～ 平成 35 年度	
補助金額：		平成30年度：3,635千円		平成31年度：0千円		平成32年度：0千円	
(積算)		広報用チラシ及びバナー作成等一式					
事業概要：		地域を訪れる方々が快適に地域を周遊するためには2次交通の活用が不可欠であることから、日本遺産のストーリーやワイナリーなどを巡る観光タクシーの仕組みを構築し、内外にPRすることにより地域への誘客を促進する。					
評価指標区分：		その他				(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標：		観光タクシー利用者数					
目標値：		平成 30 年度		600 人		⇒ 平成 35 年度 900 人	

事業⑧：	地域へのリピーター（ファン）の増加		
事業区分：	普及啓発	事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 32 年度
補助金額：	平成30年度： 6,000千円	平成31年度： 0千円	平成32年度： 0千円
（積算）	全国紙等広報経費等一式		
事業概要：	地域を訪れる方々を増やし、さらに地域のファン・リピーターとなっていただくため、会費制のサポーター制度を創設し、地域を訪れた際に会員に対して体験等のメニューを構築・実施する。この会員制度の全国的な募集広報や体験メニュー構築を行う。		
評価指標区分：	その他	（具体的な指標は次のとおり）	
具体的な指標：	峡東地域のサポーター獲得数		
目標値：	平成 30 年度 500 人	⇒	平成 35 年度 1,000 人
事業⑨：	地域を案内できる人材の育成		
事業区分：	人材育成	事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 32 年度
補助金額：	平成30年度： 1,000千円	平成31年度： 1,000千円	平成32年度： 1,000千円
（積算）	研修開催経費一式（宿泊関係）	研修開催経費一式（飲食関係）	研修開催経費一式（2次交通他）
事業概要：	インバウンドを含む地域を訪れる方々に最前線に対応する宿泊、飲食、2次交通（バス・タクシー）従事者及び地域限定特例通訳案内士に対し、日本遺産のストーリーや構成する文化財、地域の観光資源に関する知識を習得するための現地実習を含む研修を実施する。		
評価指標区分：	ガイド育成講座修了者の後年度活動者数	（具体的な指標は次のとおり）	
具体的な指標：	ガイド利用者数		
目標値：	平成 30 年度 300 人	⇒	平成 35 年度 600 人
事業⑩：	日本遺産に関する出前授業の開催		
事業区分：	普及啓発	事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 32 年度
補助金額：	平成30年度： 0千円	平成31年度： 1,500千円	平成32年度： 0千円
（積算）		出前授業開催経費一式	
事業概要：	日本遺産のストーリーや構成する文化財等の観光資源について、地域住民等が理解を深めることによって地域全体でのおもてなしに繋がることから、地域としての意識を醸成するためのシンポジウムを開催する。		
評価指標区分：	日本遺産の認知度	（具体的な指標は次のとおり）	
具体的な指標：	出前授業開催校数		
目標値：	平成 31 年度 2 校	⇒	平成 35 年度 10 校
事業⑪：	インバウンド誘客事業		
事業区分：	情報発信	事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 32 年度
補助金額：	平成30年度： 0千円	平成31年度： 1,500千円	平成32年度： 8,500千円
（積算）		モニターツアー実施経費一式	ファムトリップ実施経費一式
事業概要：	インバウンドの誘客は今後の観光振興・地域活性化に必須であることから、県内在住の外国人留学生などを対象としたモニターツアーや、欧米を中心とした海外のエージェントを対象としたファムトリップを行い、SNSによる地域の魅力発信や新たなツアー造成につなげていく。		
評価指標区分：	外国人入込み数	（具体的な指標は次のとおり）	
具体的な指標：	山梨県外国人観光客受入環境整備計画における外国人延べ宿泊客数		
目標値：	平成 30 年度 140 万人	⇒	平成 35 年度 240 万人

(7) その他事業

事業①：	地方創生推進交付金			
機関・団体：	文化庁以外の省庁	：	内閣府	事業期間：平成 27 年度 ～ 平成 年度
事業概要：	富士の国やまなし 峡東ワインリゾート構想に基づく取り組み			
事業②：	産地パワーアップ事業			
機関・団体：	文化庁以外の省庁	：	農林水産省	事業期間：平成 28 年度 ～ 平成 29 年度
事業概要：	果樹産地として競争力を強化するために行う施設整備等に対して支援			
事業③：	醸造用ぶどうづくりチャレンジ事業			
機関・団体：	都道府県	：	山梨県	事業期間：平成 29 年度 ～ 平成 31 年度
事業概要：	耕作放棄地を活用した醸造用ぶどうの栽培体験やワイン醸造体験を通じた新規参画の促進			
事業④：	世界農業遺産認定推進事業費			
機関・団体：	都道府県	：	山梨県	事業期間：平成 29 年度 ～ 平成 29 年度
事業概要：	峡東地域の歴史ある果樹栽培や農業景観等を保全し次世代へ継承するための取り組みへの支援			
事業⑤：	山梨ワイン海外プロモーション支援事業			
機関・団体：	都道府県	：	山梨県	事業期間：平成 28 年度 ～ 平成 30 年度
事業概要：	山梨県ワイン酒造協同組合等が取組む県産ワインの海外市場に向けたプロモーション取組等を支援			
事業⑥：	山梨ワイン産地ブランド力強化事業費			
機関・団体：	都道府県	：	山梨県	事業期間：平成 28 年度 ～ 平成 30 年度
事業概要：	首都圏においてワイン生産者と消費者が接するような機会を提供するプロモーションイベントの開催を支援			
事業⑦：	山梨ワイン生産技術強化支援事業費			
機関・団体：	都道府県	：	山梨県	事業期間：平成 28 年度 ～ 平成 30 年度
事業概要：	山梨県ワイン酒造組合が県等と連携して取組む、小規模ワイナリーに対する直接的技術指導や国内外他産地から醸造技術者等を招聘して行う講演会開催などの取組を支援			
事業⑧：	畑地帯総合整備事業			
機関・団体：	文化庁以外の省庁	：	農林水産省	事業期間：平成 26 年度 ～ 平成 34 年度
事業概要：	畑地帯における農業用排水施設や農道等の生産基盤整備、また担い手農家の経営安定等のための生産・集落環境整備を総合的に支援			
事業⑨：	中山間地域総合整備事業			
機関・団体：	文化庁以外の省庁	：	農林水産省	事業期間：平成 26 年度 ～ 平成 31 年度
事業概要：	農業・農村の活性化のため、地理的条件が悪く生産条件が不利な地域を対象に、農業生産基盤と農村生活環境基盤の整備を総合的に支援			
事業⑩：	経営体育成基盤整備事業			
機関・団体：	文化庁以外の省庁	：	農林水産省	事業期間：平成 30 年度 ～ 平成 34 年度
事業概要：	地域における経営体の育成状況、農地利用修正機の状況、農地の整備状況等をふまえ、必要となる土地改良事業を総合的・一体的に実施			

事業⑪：	「勝沼のブドウ畑とワイナリー群」文化的景観調査事業			
機関・団体：	市町村	：	甲州市	事業期間：平成 28 年度 ～ 平成 33 年度
事業概要：	文化的景観としての特徴・特性を把握し、景観計画に基づき文化的景観の決定を行う。			
事業⑫：	「勝沼のぶどう栽培用具及び葡萄酒醸造用具」整理調査事業			
機関・団体：	市町村	：	甲州市	事業期間：平成 28 年度 ～ 平成 33 年度
事業概要：	登録有形民俗文化財に登録されている物件の整理を行い、活用を図る。			
事業⑬：	甲州市農村ワーキングホリデー事業			
機関・団体：	市町村	：	甲州市	事業期間：平成 29 年度 ～ 平成 38 年度
事業概要：	歴史的風致維持向上計画に基づき、農業に関心のある人に、受け入れ農家に寝泊まりしながらブドウ栽培をはじめ農業体験をしてもらう。			
事業⑭：	歴史的風致散策・景観形成協働事業			
機関・団体：	市町村	：	甲州市	事業期間：平成 27 年度 ～ 平成 33 年度
事業概要：	歴史的風致維持向上計画に基づき、地域のことを深く掘り下げて解説する散策や、ガードレールを目立たない目立たない色に塗り替え景観を整える事業を市県民の参加を募り実施する。			
事業⑮：	甲州市原産地呼称ワイン制度			
機関・団体：	市町村	：	甲州市	事業期間：平成 22 年度 ～ 平成 33 年度
事業概要：	自社醸造されたワインであることの認証と当該ワインに用いた原料ぶどうの原産地を消費者に保証し、市における良質なワイン原料ぶどうの生産拡大及びワイン産業の振興を図る。			
事業⑯：	巨峰の丘マラソン大会			
機関・団体：	市町村	：	山梨市	事業期間：昭和 60 年度 ～ 平成 年度
事業概要：	毎年9月に、巨峰の産地である山梨市（牧丘エリア）の葡萄畑の中を駆け抜けるマラソン大会。販売促進、地域振興を目的として実施される。			

